



クローバー動物病院

だより 第18号



今回は、口内炎(こうないえん)についてです。

口内炎(こうないえん)

口の中の炎症を口内炎といますが、たいてい、口腔粘膜、舌、歯肉といった口内全体に炎症が及んでいることが多く、慢性口内炎では、潰瘍化(かいようか)してしまうことがあります。口内炎は再発しやすく慢性化する場合が多いため、治療後も十分に注意が必要です。

1 原因

イヌネコの口内炎の原因はさまざまですが、一般的なものは、下記の通りです。

- ・腎不全(腎臓機能の低下): 老犬・老猫に多い
- ・外傷(異物、電気コードを噛む・薬品を誤飲する等の刺激)
- ・免疫機能障害による口腔内細菌感染(ネコで特発的に発生)
- ・ウイルス感染(子犬・子ネコに多い)

イヌ: 犬ジステンパー感染症、犬伝染性肝炎

ネコ: 猫伝染性鼻気管炎、猫カリシウイルス感染症

※これらの感染症は、ワクチンで予防できます。

- ・免疫が低下することによる2次感染

→ネコで多く、猫免疫不全ウイルス感染症、猫白血病ウイルス感染症などの感染により口内炎が発症しやすくなる場合があります。

※猫白血病ウイルス感染症は、ワクチンで予防できますが、猫免疫不全ウイルス感染症(猫エイズ)はワクチンの開発が難しく、現在の段階では、予防できません。

- ・ **歯根部膿瘍**（細菌の塊である歯石による歯根部の化膿）
- ・ **重度の歯周炎**（細菌の塊である歯石による歯肉の炎症）
- ・ ほかに、骨髄炎、タウリン中毒等。

2 症状

口内炎では、濃くねばねばした**唾液**や激しい**口臭**がみられます。また、**ごはんを食べにくそう**にし、痛みによる**食欲不振**や**発熱**、**体重減少**がみられる場合があります。

3 治療

口内炎には、**抗生物質や抗炎症剤の全身投与が効果的**ですが、口内炎の原因となっている病気の治療をしなければ、すぐに再発してしまいます。

腎不全では腎臓の治療、外傷・異物が原因なら異物の除去と口腔内の洗浄、歯石が原因なら歯石除去や抜歯、感染症では免疫を上げるためのインターフェロン治療を行います。

治療中、ごはんは軟らかい消化の良いものをあたえ、飲み水は冷たすぎたり熱すぎたりしない、ぬるいくらいの温度のものをあげるとよいでしょう。

口内炎は再発しやすいので、炎症がかなり軽くなったといって治療を中止しないで**確実に治るまで継続することが大切**です。

イヌでもネコでも口内炎ができて、ごはんがしみたりすれば、食欲が落ちて当然です。そうになると、とくにイヌはごはんを十分にかまわないで、ほとんど飲み込んでしまいます。また、口の中が痛くてもがまんして食べてしまうケースもあり、病気がかなり進行した状態になって来院するケースが多いのです。

口臭がある、よだれをたらす、口元をひっかくなどの症状があれば、一度口の中を優しく見てあげてください。きっと何か異常に気づくはずですよ。